

1 理念 「子供の『幸せ』のために学校はある！～2030/2040年の日本を生きる子供たちへ～」

校長として本校5年目となる今年も、2030/2040年の日本を生きる子供たちの「幸せ」のために、公立学校の可能性を拡げていきたいと思えます。その幸せは、今の幸せであり、未来の幸せでもあります。

育みたいのは、小さな「変革を起こす力」＝agency です！

子供たちはやがて様々なコミュニティの中で生きていくことになります。学校という守られた社会の中で、大いに人・モノ・コトとつながり、本当の私（自己理解）を見付けてほしい。何度失敗してもいいのです。なぜなら、それは失敗ではなく未来への「経験」だからです。そして、お互いを承認し合える安心感（多様性の相互承認）の中で、小さな「変革を起こす力（agency）」を育みたいのです。この力は子供たちのWell-being な生き方の根幹にもなるはずです。

2 2026テーマ 「まず、やってみよう！ ～ 私の学校は私がつくる ～」

このテーマを掲げて5年目になります。まず、やってみる！・・・子供たちの姿からも、その空気が定着しつつあることを実感しています。そして、「やってみる」ためには、深い児童理解に基づき、子供たちの主体性を引き出す教師の仕掛けが必要です。子供たちの気付きを見逃さない教師の感性が必要です。教え込みではない、教師のファシリテーション能力が必要です。教師として資質向上のためにも、**私たち教師も「まず、やってみよう！」を大切にします！**

これまでの4年間でわかってきたのは、各教科指導をはじめ教育活動全体で光華遊学を支える必要がある、という当たり前のことでした。学校全体が、まずやってみる！という空気に包まれていることが大切です。遊ぶように学ぶ、遊ぶように遊ぶ「光華遊学」の具現化には「多様性の相互承認」「自己理解」「対話力」の向上が必須だと気付き始めた私たちですが、では、どのようにこの力を育めばよいのか？ここに、**光華遊学と教育活動全体の往還**の重要性があります。

次に、昭島市教育振興基本計画（令和4～8年度）の基本施策に基づいた、経営方針の重点8項目を提示します。